



「飲み会」報告

さる5月12日土曜日の18時から「カラオケ」OYSOUND（ジョイスOUND）富山山室店」にて「飲み会」を行いました。

10名の参加があり、カラオケ初体験の方もおられました。

最初は飲み会のつもりだったはずが、お部屋に入ったとたん、選曲リモコンの機械で歌いたい曲をピ・ピ・ピと次から次へと入れていく。いろんなアーティストさんの曲や今時の曲などてんこもり。変わったジャンルの歌もあったりして、予想通り？カラオケ大会と化したのではないかと思います。マラカスを鳴らしながらリズムをとり、コース料理でピザやポテト、サラダやおつまみなど選曲しながら食べまくっていた感じ。ドリンクバー・カレーやソフトクリーム食べ放題があり、ソフトクリームは自分で作れますよ。そうそう「多目的トイレ」もありますよ。

カラオケ初体験の方は、初めはマイクを持っていても声が小さかったけれど、何曲か歌っていくうちに慣れてきたのか、声が少しずつ大きくなり、最後には「楽しかったー」と話していました。

またある方は、大きい画面の前で踊りながら歌っていました。

皆さんの普段なかなか見られない一面が意外な形で見られるのも新鮮で、イベントやってよかったなーと思っているのは、この文章を書いている担

当者だけでしょうか？

21時半まで続き一旦お開きとなり、帰られた人、夜中まで残られた人もいてその日の夜はふけたのでありました。

参加して下さった皆さん、ありがとうございました。

今後の予定としては、8月のお盆明けに「Summer ぱんだ Night」を計画しています。詳しいことがわかりましたら、またお知らせします。見に来てくれたらうれしいです。



「NPO法人文福の総会と

午後からの富山市身体障害者協会現事務局長の

大西貞夫さんの講演会に多数の参加を」

私たちNPO法人文福はどんな障害者でも社会参加を進めたり、一般地域社会で様々な人と生きていくために居宅介助・介護サービスや障害者が集まって色々な問題を話したり、解決するための行動をしている障害者部会などの様々な事業や活動をしている団体で、来たる6月16日にサンシップとやま601号室にて年に1回の総会と午後からは「昔の障害者のことを知り今を学ぼう」というテーマで富山市身体障害者協会事務局長の大西貞夫さんをお招きして講演会とその後に質疑応答も行いたいと思います。

まず午前中の総会は、各事業や部会の1年前からの経過報告と今後1年の活動方針をまとめて各部会から発表してもらい、その後質疑応答をしてもよしそれで良ければ会員の皆さんに議決してもらおう予定です。

そして午後からは富山市身体障害者協会事務局長と富山市身体障害者相談員などをやっておられる大西貞夫さんから講演として今年中の文福のテーマとして、「昔を知り、今を考える」ということで自分の足に障害がある自分自身の経験を踏まえて、これまでの富山市の障害者の活動の状況で何が問題でどうやってきてこれから何が問題でどうやっていくかを1時間程講演してもらい、その後休憩を挟み集まった人と質疑応答や話し合いをしていきたいと思っています。

昨今では、障害者といっても様々な障害の重複障害者が増えたり、一方最近では、障害者の権利を認めたり、街や社会が障害者にとって生きやすい環境や制度や法律も徐々に進んできています。

もう一度そういった意味でもう一度、障害者のことを考えてみるべきだと思い、この大西さんの講演会などを企画しました。障害者の方々や多くの人たちがこの総会・講演会に多数参加して下さることを望みます。

タイムスケジュール	
9 : 30	受付
10 : 00	第 16 回 NPO 法人文福総会
12 : 00	休憩
13 : 15	講演会 「障害者の昔を知り 今を学ぼう」 大西 貞夫氏
14 : 30	質疑応答



サンシップとやま

〒930-0094 富山県富山市安住町 5-21

TEL (076) 432-6141

●交通のご案内

電車: 富山駅から徒歩 15 分

市電: 富山駅から大学行き「県庁前」下車
徒歩 2 分

(車の場合は駐車場がございます。)

お問い合わせ先

NPO 法人 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3

TEL 076-441-6106

kaokao の つぶ や き No.4



母はくも膜下出血で倒れるまでは、とてもハッキリものを言い、自分にも私にも厳しい人でした。

私が施設を出たいと言った時には、「施設を出るのなら勘当だ!!」と言った母でしたが、くも膜下出血で倒れ、意識が回復してからの母は、まるで人が変わったかのように、穏やかで可愛いおばあちゃんに変貌しました。

最近の母は「kaokao 今度いつ(実家)来るがけ? いつ会えるがけ?」とか、「kaokao 淋しないがけ? お母さん淋しいわ!」とか、「お母さんとお父さんと kaokao と 3 人で暮らしていた頃が楽しかったわ。もう 3 人で暮らせんがいな。」と言うのですよ。

私は「あれー、このフレーズ、子供の頃、学園に面会に来た母に私が言ったフレーズだ!」と思い出してしまいました。

『お母さん、今度いつ(学園)来るがけ? いつ会えるがけ?』とか、『お母さん、淋しないがけ? kaokao 淋しいわ!』とか、『お母さんとお父さんと弟と kaokao と 4 人で暮らしたいの。』などと言い、当時の母を困らせたものでした。

歳をとると子供にかえると聞いてはいましたが、今の母に接していると、心からそう感じている私です。

幼い頃、学園に面会に来た母が、帰り際に「元気でおられ! いい子で先生や看護師さんの言うことをきくんだよ。」と私に言ったように、私も今の母に「また会いに来るよ。元気でおられ! ちゃんと薬を飲んでね。」と言って富山の私の家に帰って来るのです。

子供にかえった母を愛おしく思います。その反面うざったく思うのも、偽りのない私の気持ちなのです。

でもでもやっぱり母には長生きしてほしいです。お・か・あ・さ・ん!

「介助・介護の障害者・高齢者などへの根本的な障害者割引とは」

NPO 法人文福理事長 八木勝自

今年の三月に新聞を読んでいたら、富山市にある富山大和デパートで田中達也さんの「MINIATURE LIFE 展」をやっているという宣伝が載っていました。この田中さんの作品は、食糧品や日用雑貨を使って例えばプリンにミニチュアを加えて島の「甘島」とか、フランスパンを加工してミニチュアを加えて新幹線に見立てた「新パン線」とかいう写真に撮ったり実物も展示してあるというので、「これはおもしろそうだな」と思い、さっそく行ってきました。

それで展覧会の方は色々な作品があり、実物も数多く並べてあって本当に面白かったのですが、車イス移動にも介助者が必要な私は展覧会の受付で障害者割引のことも頭によぎって「何人分必要ですか？」と聞くと、受付の人は「2人分の800円です」と言われたので、その時はこちらも聞いた都合上もあり、800円払いました。それで私が素直に思ったのは、その展覧会は普通の人は400円でその時は介助者も興味があって言い、介助者も400円払って、800円払いましたが、これが介助者が見たくないとか介助者が純粹に仕事として来ていたら、私自身が400円ではなく、800円を払わなければ見られないことになってしまいます。これは障害者割引の根本的な問題だと思っています。

しかし、私は介助・介護のいる障害者割引はしなくても良いと思っている方です。

これまで、介助・介護の必要な障害者は催し物や公共交通機関のバスや電車などの公共交通機関を利用する時にも特急料金や指定席は普通乗車の2倍と料金の端数切り上げで普通の人より料金を多く払っていましたが、それがない時はだいたい障害者の本人と介助者が半額半額で普通の人一人前を払っています。

これは戦後の現在 JR である国鉄時代に名前こそ「障害者割引」となっていますが、実は1986年まで障害者年金がなかったり、多く（当事大勢の傷痍軍

人を含む)の働くことのできない障害者がいて、障害者がお金をもっていないとか家族が中心に障害者の介護をしたり、家族が障害者にお金を支払ったりしていたので、実際は「家族割引」という性質なものだったのです。ところが今は、障害者や高齢者などの介助や介護の多くはヘルパーや介助者などが仕事で来たり、そのヘルパーさんや介助者は展覧会などに行く時は料金は払ってはなく、障害者自身が2人分を支払っていたら介助・介護が必要な障害者は展示会・展覧会に行けない状態になってしまうのです。

そこで私は介護・介助が必要な障害者などは公共交通料金も含めて基本的には「介助者割引」として介助者一人を無料にしてほしいと思うのです。そうしないと今後、介助・介護が必要な障害者は社会参加が制約されたり抑制されたりしてお金の面でも社会参加できなくなってしまうという結果になってしまうのです。

この問題は昔から公共交通機関などでは、介助などの必要性のない単独障害者は「障害者割引」で健全者一人分の半額なのに介助や介護が必要な障害者は場合によっては普通でも健全者一人分の2倍以上の料金を払っているのです。そこは私は介助・介護の必要な障害者の介助者・ヘルパーなどとわけて介助者・介護人は、一人分は無料にすべきだと思っているのです。

そうしないとお金の面でも介護が必要な障害者は、健全者や他の障害者と不平等になってしまうのです。こうしたことを障害者割引などを考えるときに、割引企業や団体・行政などは考えてほしいと思うのです。



「甘島」



「新パン線」

文福総会 記念講演報告 その7

京都日本自立生活センター介護コーディネーター渡邊^{わたなべ}球^{たま}さんの講演内容「Ⅲ. 介助者のこと」の続きを掲載します。

○介助者の痛み

障害者の地域生活を支援している介助者たちがどんなときにどんなふうに痛みを感じているのか、実際に介助者から聞き取った声も紹介しますね。

まず、突然、やつあたりみたい、障害者から「がー」と怒られるときの気持ちの揺れ。

「やつあたりをされた瞬間って、言葉以上にエネルギーみたいなものをもらってしまうので。私は傷つきはしないですけど、なんかどーっと疲れます。使ってる体力以上に。疲れますし、なんというか、その時、必要な判断ができない、鈍ってしまう、というか、こう、真っ白になっちゃうとか、思考が停止するし。」

突然、ちょっと自分には理解できないタイミングで「カー！」って向かってこられると、障害者側もそういう状況なんだろうけど、思考が停止してしまう、判断ができなくなってしまう。それで、その衝撃をぐっと自分の中でとどめようとがまんしたとしても、

「がまんしてしまうと、がまんできたと思って忘れたと思って、ぜったい体のどっかに残っているんですよ。で、夜眠れなくなったり、で、なんか常にストレスとか、怒りみたいなのを体が帯電してしまってるみたいなかたちで、ずっと力が入ってしまっていたり。そういうもののせいで、鬱になってしまう。」

ヘルパー側も、人から感情の爆発を受けて、それを自分の中だけでとどめておくと、回復しがたいような心の傷を負ってしまうこともあるということですね。

次は、自分が奴隷みたいな心境になって、身体も壊してしまったという話。

「すごく嫌になって。なんで、俺、ヘルパーでなく、こんな奴隷みたいなことせなあかんのだろうって。それで、我慢に我慢を重ねて、腸炎になったりして。それで、けっこう言ってしまうんですよ。耐えきれなくなって。(すると)まわりの方が、ほんまに態度悪いヘルパーやな、みたいなかたちになってしまっ。」

これがどういう状況かという、たとえばテレビ見ながらあるいは昼寝しながら「これやっ」といって「あれやっ」といって障害者から言われるような状態。言ってみたら当事者主体とのギャップですね。本来当事者主体というは障害者が主体的に何々をすることを支えるという部分があるはずだと思うんですけど、単なる便利使い、召使いみたいにされてしまっているんじゃないかと。そして、それはちょっと違うのでは、と介助者が言ったとしても、そこは当事者主体をたてにとられて、口答えするダメな介助者みたいに扱われてしまう。そうした理念とのギャップ、理不尽さがある種の苦しみを生んでいるような気はします。

昔は、介助というのは運動の一環だったと思うのですが、制度が整う中で、逆に、介助者の小間使い化とか、介助のサービス業化ということが進行しているとは思いますが。

その中で「当事者主体」という運動上の理念もどっかで変質しているのかもしれないです。ヘルパー事業者によっては、障害者のことをご利用者様というところもありますね。

障害者がお客様になって、介助者が口答えしてはいけない底辺のサービス業みたいになってしまいかねない。もちろん、理不尽なことを言ったりやったりする介助者に苦しめられている障害者もたくさんいます。だから一概には言えないけど、一方で介助者側にも理不尽さを感じてしまわざるをえないような状況もあるようになってきているのだとは思いますが。

○介助者の殺意

さて、介助者の殺意って書きましたが、いろんな理不尽なことが重なり、殺意すら抱いてしまうこともあるということも報告されています。「この人がいなかったらどんなにからくなことか」みたいな気持ちですね。

「私は今とてもストレスフルな生活を送っています。というのもSさんという人の介助をしながら、Sさんの所に入る学生さんのコーディネ

ネットもしています。コーディネートといっても、学生さんが入れない所に自分が入り、キャンセル時も自分が入ります。日曜日に休みたいのですが、学生さんが日曜日に入れなため、私はいつも日曜日に入ります。しかも S さんには暴言をはかれたりしてストレスはたま一方です。当事者に暴言をはかれた時、私たちは言いかえすことができるのでしょうか。どうしたらいいですか？私も含めて学生も事業所のヘルパーも対応に困っています。」

もう一人、別な人の声も紹介します。

「こここのところ仕事（ヘルパー）のきつさからくるストレスのためか、基本的な倫理観（？）がゆらいでいる。仕事中に「死ぬ」と思ってしまったことも何度か。「こんなにもお金や労力をかけて、ヘルパーたちを病気にしてまで生かすだけのねうちがあるのか」とでもいうような。苦しいです。」

本当に厳しい言葉なので、こういうことを紹介するのも苦しいことなんです。追い詰められると、場合によっては内面的にこういうような感情が湧くというのは、人としてある意味自然なことかもしれないです。比較していいかわからないですが、子育てしているお母さんが密室化した 2 人だけの世界の中で目の前の赤ちゃんに対して「カー」となって自分を失ってしまう。そして気づいたら、自分では考えられないような金切り声を挙げていたり、ものを投げていたり、手を挙げていたりする。子どもの虐待というのが、最近ようやく取り上げられるようになりましたが、本当に頻繁に、それに近い状況はいたるところにあると思います。

どこかでそういう環境に追い込まれると、人の気持ちをもちこたえられなくなっていく。仕事でも、家族間でも、人を追い詰める環境があったら、そうなっていくのだと思います。

○障害者が介助者に対して抱く気持ち

これまで、介助者側の気持ちというのをお伝えしてきたのだけど、一方で当然ながら障害者が介助者に対して遠慮、いらだち、憎しみなどを抱くことがあると思います。

このことについてもきっちりとお伝えできた

らよかったんですが、まだ声をしっかり集めきれないです。

障害者側にも、当然、すさまじい感情の渦、うごめき、どす黒いものがあると思います。

ちょっと前に神戸の住田さんという脳性まひの方が出ていた映画がありました。覚えてますか？タイトル忘れちゃった（追記：『おそいひと』2007 年公開）。脳性まひの方が介護者含め健常者たちに対する恨みで介護者を殺していく映画でした。いろんな批判があって一般公開も先送りされ、賛否両論ありましたが、僕は全然、そのどす黒さ、狂おしいようなところは、感情面ではありうることだなと感じてました。

○介助現場 = 双方が痛み、傷つきやすい現場

これまでのことからいきますと、介助現場というのは、双方ともに痛み傷つきやすい現場ではないかということだと思います。一般的には、社会福祉、介助、介護というのはきれいな言葉で語られることが多いのですが、やっぱりそのことはきっちり認識されないとギャップに悩んでしまう。

痛み、傷つきやすいということは、つまり加害や被害を生みやすい現場ですね。当然、被害があるということは、そこには加害もある。被害者、加害者双方がいる。そこで、被害にあうリスクを減らすためには加害のリスクも減らさないといけない。

加害者ってのは単に悪意だけでやっているはずではないですね。人間は誰もある種の加害者になりうるわけで、何らかの環境におかれたら、人は加害者になりうる。そういう、環境をつくらぬ試みを考えないといけないです。

○加害リスク・被害リスクを減らすには

ここからなかなか僕も簡単に解決を考えられてはいませんが、加害リスク、被害リスクを減らすための課題ということを少し考えてみます。あたりまえですけど、人的なゆとりとか、第三者の声かけとか密室化しないこととか、そういうことが加害、被害を引き起こさないためには大事なことになります。当然金銭的ゆとり

も必要になってくると思います。金銭的ゆとりってというのは、個々人の給料レベルでの話でもあるし、行政から事業所におりてくる介護報酬単価の話でもありますね。そういう部分でのゆとりがなければ、そこでやる人たちの心もすさんできてしまう。

自分の時間がもてないって言うしんどさは人を精神的に追い詰めるのに十分なことだと思います。そういう意味で、個々人にどうやって時間的ゆとりを設けることができるか、とても大事な事だと思います。金銭面や人手面などの面で、運動が必要なんですけど、なかなか簡単にはいかないかもしれませんね。

社会保障費も国レベルでいっても厳しい状況は確かにあるし、個々人のゆとりというのがぐんぐんと増えていく時代状況でもなさそうな時代であります。

その意味では、今ある人間関係の中でできることも考えていかなきゃいけない。

もう、ごく当たり前のことですが、シフトの見直し。シフトの見直してというのはさっき言ったような介助と介助の間に空き時間が多くあったり、睡眠時間もまともにとれないようなシフトの状況だったり、そうした見えにくいところでのしんどさが増えているような状況をどう改善していくかとか、誰か特定の介助者に負担がかかりすぎていたら、それを上手に配分していくとか、そうしたことです。どこらへんに負担がかかっているのかを知るには、実際に動いている介助者からの聞き取りも丁寧にやる必要があると思います。

聞き取りを丁寧にやるということは、その場にいる人たちが、障害者も介助者も、人として大切にされているか、誰かが見捨てられてないか、誰かがいじめられているのを見捨ててないか、そういうところへ目くばせ、配慮していくということだと思います。

たぶん、介助現場の中には「なんか難しいな」「あそこ難しいな」「なんかちょっと関わりにくいな」「関わるのは厄介だな」とかそういうところがあると思いますが、おそらくそういうところが一番、目くばせ、配慮、介入のニーズがある。助けが必要などころかなと思います。

不当な権力関係が発生していないかどうかということもきちんと見る必要があると思います。いじめられるような環境にあるのかどうか。言い返せない状況になってないか。何も言えないような状態が作られてないかどうか。権力関係のあるところに暴力って発生しやすいと思います。人を支配下における環境は暴力が発生します。こういうところへのチェックが大事なのかなと思っています。

もちろん権力関係は人間関係のどこでもあります。どんな関わりの中でもあるはず。組織や団体内部にもあると思います。そういう、権力関係が人間の歪んだ感情を生むはずですね。

介助者と障害者の間にも当然あるかもしれない。ある現場はこの介助者が握ってしまっている、障害者が苦しい思いをしている可能性があることもあります。逆に障害者が介助者のことをいじめている現場もあるかもしれません。介助者が何も言えなくなっているとか。あるいは、障害者と障害者の間にもこういう関係は当然あるかと思っています。

それから、また、介助者と介助者の間でも。あっちのほうの上でこっちが従わせているみたいな。

こういう権力関係ってというのは、そこから逃げやすい状況だといいますが、逃れにくい人間関係密室閉鎖空間での長期間固定的な関係というのは危険。加害者・被害者を作りやすい関係ですね。

そして、その場を仕切ってる、誰が権力を握っているのかをチェックすること。

○対話の大切さ

これは最後になりますが、正直僕の事務所自身も人手不足だし、将来このままでうまくいくんだろうか？いつも頭を悩ませています。人間関係もそんな全体的に良好かといえば一般的に悪い所もあるし、最近、事務所の中に派閥みたいのが出来てることもちらほらあるのではないかと思います。

最近、事務所内で試みようとしていることがあって、「権力関係・介助関係などを解除した場での対話」ということです。誰かがその場を握るようなことをしない環境での対話、参加する

一人一人が、自分の思い、気持ちを語り、それに他の人が耳を傾ける、そして、だれかが話をまとめたりしないような、そうした対話。

組織ってというのは役職があったり、リーダーがいて端っこの人がいて、ある種の権力作用がそこに働いていることはしょうがない。ただ、被害がどこで起こるかといったら、その端っこの方で起きているかも知れないわけですよ。

理念や精神論、根性論、運動論、立場、そういうのは、一旦ちょっと脇においといて、それぞれがそれぞれの内的対話、思っていることに耳をすます。心の中で、自分の声やいろんな他の人の声を響かせる。

健常者と障害者とかいろいろ立場あると思います。登録ヘルパーとか、コーディネーターとか。普段はそういう立場が邪魔して、お互いにお互いの声を率直に聞き合うということはなかなかないと思いますが、一人一人きっちり話せる場をつくる、空間をつくる。一人一人の言う事を茶々を入れず、評価もせず聞く、そういう場。

普通に会議をやっていると声の大きい人はバーンと言って、いつも喋らない人は、いつも喋らない、そんな状況はおそらくあると思います。

でもそういう人たちも中の一員だし、そういう人たちの声も聞く場所って言うのは大事なんじゃないかなと思います。

団体の中で、そういう人が喋ると、「あんたそれなんなの」とぱっとさえぎってしまう、そういうことをしない。

本当に苦しいような思っているのはなかなか表現されない部分があります。言っただけいけないこともあるかもしれません。

でも、そういうことも出しておかないと、それを全体の課題としておかないと、その思いは溜まって爆発する可能性がある。

加害のリスクを個人の責任にしないこと、全体の課題としておくことが大事だと思います。言ってみれば、加害リスクを個人化しないで社会モデルで受け止めるということですね。

誰かが正しいことを言っているという状況ではなく、この人が正しいことを持っているみたいな感じではなくて、結局正しさは権力に結び

ついていくので、どこかでそうじゃないかもしれないみたいな「不確実性」に耐え続けることも大事なんじゃないかなと思っています。人間なので、色んな思いが湧きます。正しさだけでは決して感情はコントロール出来ないと思います。でもその感情を正しさで評価するんじゃないくて取り敢えずは、一旦社会化できるような、共有化できるような場を持つことも必要じゃないかなと思っています。ちょっと抽象的でごめんなさいね。

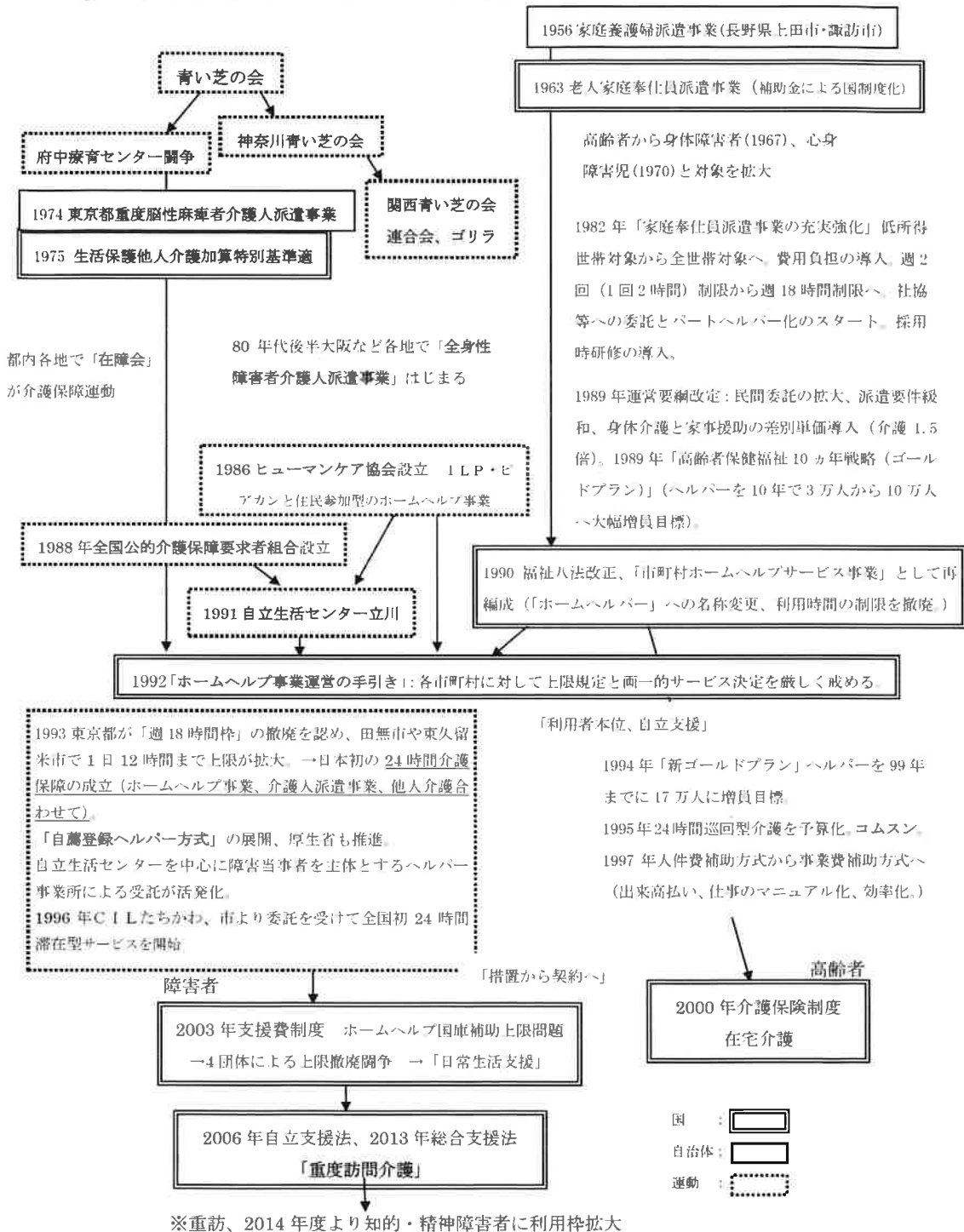
それぞれ大事な人間だからそういう人たちの声もきっちり聞けることがどういけるかなということは、ひょっとしたら、今回のテーマのような介助者の問題にもつながっていくかなと思っています。

以上です。ありがとうございました。

※7回にわたり、記念講演を掲載してきましたが、今号で最後になります。次ページに参考資料として「障害者の介護制度と介護保険のヘルパー制度の歴史の比較」を掲載します。

渡邊さん、長い間ありがとうございました。
(編集担当)

●障害者の介助制度と介護保険のヘルパー制度の歴史の比較

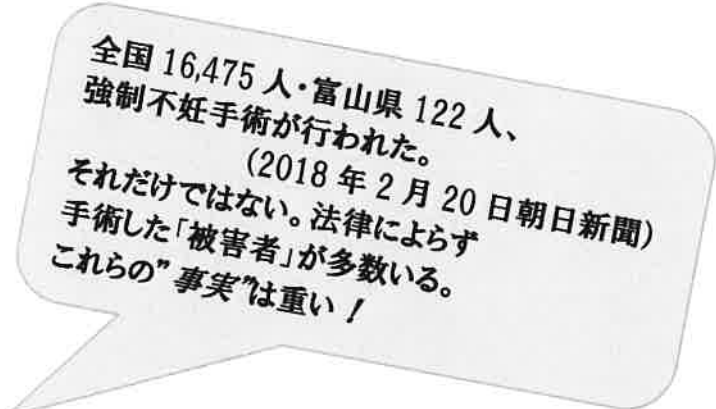


学習会のご案内

年度最初の学習会を 5 月の終わりに、第一回目を行いました。
旧優生保護法の影響があり、社会全体が、障害者が子供など産む存在
ではないという事で、法以外でもいろんな形で障害者に圧力がかけられ
ていた体験を語っていただきました。

この時の報告は、まだ書けていませんが、少し早い気もしますけど、
次号では遅いので、書いておきます。

第二回目は、「**障害者の立場から問題を明らかにする**」不妊手術の影響
がどのように当事者の人生を苦しめるか / 障害者の性的自己決定権を
奪う権利があるのか・支援体制を考える / 事実の解明と謝罪を求めると
いう内容で行おうと考えています。



全国 16,475 人・富山県 122 人、
強制不妊手術が行われた。
(2018 年 2 月 20 日朝日新聞)
それだけではない。法律によらず
手術した「被害者」が多数いる。
これらの”事実”は重い！

日 時 7 月 13 日 (金) PM 7 : 00 ~

場 所 文福 事務所

参加費 無 料

担当:河上・山岸・堀江

運営会議報告

2018. 4

【学習会】

5月25日、7月13日、11月10日の3回にわたり実施予定。テーマは「障害者と不妊手術と優生思想の問題について」です。

【障害者部会】

オール富山県民連合から安部首相を許さない 3000 万人署名団体になる要請があり、受けました。

公共交通機関の問題で、普通利用者1人分より障害者が多く払う時があり、それは障害者差別なのではないかという話が出ました。今後考えていく必要があります。

総会のテーマが「障害者の昔を知り、今を学ぼう」に決定しました。午後の講演の講師は市障協の大西事務局長にお願いしました。

【派遣事業部】

ザ☆カイジヨの日程が、基礎6月30日と7月1日、追加が7月7日に決定しました。場所はサンフォルテの303号室です。

【レクリエーション】

4月14日にイベント「お料理の会」を実施。参加人数の関係で参加希望者を断った経緯があり、今後どうしていくか考えていきたいです。

5月12日にイベント「飲み会」を実施予定。18時から山室のジョイサウンドでやる予定。

【障ちゃんニュース】

今編集中で、印刷は4月22日にやる予定です。

【まっち】

編集中です。印刷の日程はまたメンバーで話します。

【その他】

新正職員さんの挨拶。

総会資料の発送は5月28日から5月31日の間でやる予定。

処遇改善と手当ての話をしました。

各々やりたい研修があれば声をあげて、どんどんやっていこうという話をしました。

次回は5月15日

報告者；吉田健太



◆今後の予定◆

このコーナーでは、文福と他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

◎ 第16回 文福総会

日 時 6月16日(土) 10:00～

場 所 サンシップとやま 601号室

テーマ「障害者の昔を知り 今を学ぼう」

午後からの講師プロフィール紹介

大西 貞夫 (おおにし さだお) 氏 富山市婦中町在住

富山市身体障害者相談員

富山市婦中地区身体障害者協会 事務局長

◎ 見えない・見えにくい人のための生活便利グッズ 展示&相談会

日 時 6月23日(土) 10:00～16:00

場 所 富山県立富山視覚総合支援学校 (富山市大江干144)

①展示コーナー

・日常生活用具給付対象器具・補装具

拡大読書器、携帯型読書器、よむべえなど

・便利グッズコーナー

白黒反転まな板、便箋ガイド、コインホルダーなど

・遮光眼鏡コーナー (東海工学)

②体験コーナー

喋ってくれるパソコン、スカイプ (インターネット電話) など

③相談コーナー 富山視覚総合支援学校による教育相談など

④盲ろうコミュニケーション体験

主催・お問い合わせ先

視覚障害者ITサポートとやま (Bitsとやま)

TEL (090) 2378-6944 入江さん

◎ ザ★カイジヨ 「重度訪問介護従事者養成研修」 基礎コース

日 時 6月30日〈土〉9:00~17:30

7月1日〈日〉9:00~17:00

場 所 富山県民共生センターサンフォルテ

6月30日〈土〉303号室

7月1日〈日〉2階 生活体験実習室

富山市湊入船町6-7

受講料 2,500円

主 催 NPO法人文福 後援 富山県 富山市

賛同団体 富山YMCA、デイケアハウスにぎやか CIL富山

◎ ザ★カイジヨ 「重度訪問介護従事者養成研修」 追加コース

日 時 7月7日〈土〉9:00~18:00

場 所 富山県民共生センターサンフォルテ 303号室

富山市湊入船町6-7

受講料 1,500円

主 催 NPO法人文福 後援 富山県 富山市

賛同団体 富山YMCA、デイケアハウスにぎやか、CIL富山

問い合わせ NPO法人文福 TEL (076) 441-6106

久保・福田まで

※申込書は前号に掲載しています。

◎ 連続学習会 第二回目

日 時 7月13日〈金〉19:00~

テーマ 優生思想について

テーマ「障害者の立場から問題を明らかにする」

場 所 文福事務所

参加費 無料

